

岩手ホスピスの会通信



岩手ホスピスの会（代表：川守田裕司 事務局長：吉島美樹子）

会 員 数／435 名（2015.7.27 現在）

編 集 発 行／「岩手ホスピスの会」事務局 〒020-0883 岩手県盛岡市志家町 13-31 川守田方

TEL：090-2604-7918 FAX：019-653-6447

郵便振替口座／02250-1-60580 E-mail／hospice@eins.rnac.ne.jp

Homepage（岩手ホスピスの会通信）／<http://hospice.sakura.ne.jp/>

No. 52
2015 年 8 月

ホスピスセミナー開催

今年で 10 年目となるホスピスセミナーが 5 月 27 日、盛岡市で開催され、二人の講師をお招きして、終末期の事前指示書、緩和ケア・ホスピスケアについて考えました。

①岩手県立二戸病院副院長 高橋浩先生

「意思決定支援の現場より～
カシオペア研究会から、
HONSE、そして、HOTARU へ」

高橋浩先生はこれまで 5 年間に渡り二戸地域の高齢者の終末期における意思決定支援に尽力して来られました。近年医療現場では、本人やその家族の意思が確認できず、延命医療をどこでやめるのか判断できないケースが相次いでいます。

人工栄養、人工呼吸、人工透析が三大延命療法と呼ばれていますが、特に近年問題となっているのが人工栄養です。人工栄養療法の代表的なものが「胃ろう」で、導入が比較的簡単なため施行数は多いが、どこでやめるのか判断できないケースが相次いでおり、多くの患者さんにとって深刻な問題となっています。これは今後訪れる高齢、多死社会において重大な問題となると思われます。地域の高齢者の特性として、周囲や家族への遠慮が多く、自己表現を控え医療関係者に対しては自分の意見を伝えることが出来ない——ということが挙げられます。このような地域だからこそ、高齢者が自身で終末期の医療を選択できるように高橋先生たち



二戸病院・高橋浩先生

がガイドラインを作成しました。患者さんの意思、希望を拾い上げ、患者さんの意思が確認できない時は、これまでの生き方から本人の考えを推察します。患者さん本人が医療についての決断を下す事が出来なくなった場合に、医療についてのその人の希望を伝達する文書が必要ではないか、ということで、高橋先生たちが二戸地域の高齢者の方たちのために事前指示書「HOTARU」を開発しました。「HOTARU」は、自分で書きたいと思ったときにすぐそばにあり、書きたくなければ書かなくとも良い、しかし、書き残したものは個人の意思として尊重されるような社会の仕組みが必要だと考えています、ということで、高橋先生は「HOTARU」を二戸地域に広げたいと行政にも働きかけております。当会も患者さんの立場から、最後まで自分らしく過ごせるよう事前指示書の必要性を痛感しております。先生と連携しながら、岩手への事前指示書の普及を願い、活動して行ければと願っております。

（事前指示書「HOTARU」についての新聞紹介記事は 12 ページ参照）



岩手医大・長澤昌子先生

②岩手医科大学附属病院高度看護研修センター 主任教員兼看護師長・長澤 昌子先生

「今あらためて、ホスピス・緩和ケアを考える」

長澤昌子先生は、岩手医科大学附属病院高度看護研修センターにおいて、これまで3年間認定看護師の教育課程を担当して、多くの緩和ケア認定看護師を育ててこられました。長澤先生のお話によると、現在岩手で、緩和ケアを受けられる体制について、①緩和ケア病棟6箇所②緩和ケアチームが活動するがん診療連携拠点病院が10カ所③2008年から今年までに緩和ケア研修を終了した医師が1,028人④緩和ケア認定看護師が33人⑤がん患者家族サロンが9カ所に設置—という現状ですが、自分自身が受けることを考えると、安心できるとは言えません。緩和ケアは療養場所ではなくケアのプログラムを表す言葉です。自分や大切な人が、「望む緩和ケア」を受けられるためには、それぞれが「大事にしたいこと」を話し合っておきましょう、と強調されました。今年度より岩手医大に「緩和ケアセンター」が開設され、岩手の緩和ケア医療の中核的役割を果たしていくことが期待されております、今後も一人でも多くの患者さんが緩和ケアを受けられる体制作りを進めていただきたいと願っております。

全国のがん診療連携拠点病院へ向け、 タオル帽子を発送

2015年6月。今年も全国のがん診療連携拠点病院407箇所のうち、依頼のあった23箇所の病院にタオル帽子総数1,870個を発送しました。昨年同期より送付数270個増、送付病院2件増となりました。

お送りしたタオル帽子で全国の患者さんが少しでも笑顔になっていただけることを、ボランティア一同願っております。



タオル帽子発送作業を行うボランティアの皆さん

送付先病院一覧

青森県	青森県立中央病院		
岩手県	県立中部病院、県立胆沢病院、盛岡友愛病院		
宮城県	大崎市民病院	山形県	山形県立中央病院
栃木県	佐野厚生総合病院	新潟県	市立新発田病院
千葉県	千葉県がんセンター	東京都	NTT 東日本関東病院
岐阜県	岐阜大学医学部附属病院	石川県	金沢医科大学附属病院
大阪府	大阪大学医学部附属病院	滋賀県	市立長浜病院
広島県	広島大学病院	兵庫県	関西労災病院
愛媛県	市立宇和島病院、愛媛県立中央病院	鳥取県	米子医療センター
大分県	大分大学医学部附属病院	佐賀県	佐賀県医療センター好生館
鹿児島県	鹿児島医療センター	熊本県	熊本大学医学部附属病院

岩手ホスピスの会とタオル帽子ボランティアへの メッセージ (2015年5月～6月)

当会のタオル帽子を受け取った全国の皆さんから当会に寄せられたメッセージの一部をご紹介します。2008年6月からスタートしたタオル帽子発送はこれまで66,210個に上っています。帽子を作るボランティアの皆さんに深く感謝申し上げます。



- ◆素敵なタオル帽子を私も作ってみたいくなり型紙をお願いしました。早速かぶってみるととても柔らかく、きっと私もこういうキレイな帽子ならかぶりたいかなと思いました。みなさんがずっと続けてこられた小さなご奉仕で多くの方々のご病気の中でも力づけられると思います。私も年にどれくらい作れるかわかりませんが、心をこめてぬいたいです。この機会に感謝します。(福島県)
- ◆抗がん剤の治療中です。ある日治療センターの受付で見つけ看護師さんに「どうぞお使い下さい」と言われ、とてもありがたくうれしく思いさっそくいただき使っております。もっと多くの人に感動を与えて下さるよう皆様の活動を応援しております。(山口県下関市)
- ◆この度抗がん剤治療のため髪の毛を洗うたびごっそり抜け流れるのを見て、精神的に追い込まれ、不安で頭の中はいっぱいです。脱毛するのは覚悟していたつもりですが、実際そうなるとうっごくショックで眠れませんでした。そんな時タオル帽子に出会いました。いろんなかわいい帽子があって、これもいいあれもいいと迷ったあげく5枚もいただきました。毎日今日はどれにしようか楽しみになりました。作って下さった皆様本当にありがとうございました。これから前向きに頑張れそうです。タオル帽子万歳!!(広島市)
- ◆二日ほど前からタオル帽子を着用し始めています。家族の不安そうな顔を見ていると、これをいただけてよかったと心から思います。副作用はあまり出ていなかったのですが、脱毛だけは免れられなかったようです。不安でいっぱいでしたが、一つの帽子で背中を押してもらえた気がして心強く自分でも意外なくらい明るく過ごせています。本当にありがとうございました。(奈良県)

フェイスタオルご寄付のお願い

皆様をお願い申し上げます。ボランティアさんがタオル帽子を作るためのフェイスタオルが不足しております。できましたらご寄付のご協力をお願いいたします。どのようなものでも構いません。ご家庭で眠っているタオルがありましたらぜひお送りください。

〈送付先〉〒020-0883 岩手県盛岡市志家町13-31
岩手ホスピスの会宛



タオル帽子取扱い病院見学レポート

— NTT東日本関東病院化学療法センター —

当会では毎年2回、6月と12月に全国のがん診療連携拠点病院年平均約80箇所にタオル帽子を送っておりますが、実際に各病院ではどのように患者さんに帽子を手渡していたのかぜひ見たいと思い、7月17日に訪問しました。東京五反田にあるNTT東日本関東病院には昨年12月に100個、今年6月に100個のタオル帽子をお送りしています。

当日は、同院看護部がん化学療法看護認定看護師の鈴木裕美さんが対応してくださいました。同センターはリクライニングチェアが20台、個室が2室あり、平均して一日17～18人の患者さんが利用しており、注射一本して帰られる方もいますが、長い方は7時間位化学療法の点滴をする方もいらっしゃいます。

当初は同センターの受付にタオル帽子を置いて自由に持って行けるようにしてありましたが、がん患者さんではない方も持って行くようになり、現在は化学療法を受ける患者さんにのみ配布しているということでした。

タオル帽子は化学療法センターを利用する患者さんに大変好評で、これからも継続して配布させていただければ、というお話でした。

鈴木看護師さんからは、大中小とサイズごとに袋に入っていると、患者さんに配布するときわかりやすく助かりますという要望がありました。

東京都にはがん診療連携拠点病院が25ヶ所ありますが、毎回ご連絡はしているのですが、最近ではご利用いただいているのはNTT東日本関東病院さんのみです。

院内でタオル帽子作成がボランティアで行われている病院もありますが、そうでない病院からなぜ依頼がないのか聞いたところ、なぜなのか分からない、タオル帽子は脱毛に悩む患者さんには間違いなく喜んでいただけるものだと思います、ということでした。



鈴木看護師さん(左)と当会・吉島事務局長(右)



NTT 東日本関東病院化学療法センター

鈴木看護師さんに、がん化学療法看護認定看護師の仲間に各病院でのタオル帽子の取り扱いを勧めていただくようお願いして来ました。

見学はできませんでしたが、この病院には緩和ケア病棟が設置されており、鈴木看護師さんはじめスタッフの対応が温かく、患者さんに対して多くの配慮が感じられる病院でした。

NTT 東日本関東病院：〒141-8625 東京都品川区東五反田5丁目9番22号
電話(03) 3448-6111 ☆緩和ケア病床18床／総病床615床

タオル帽子を受け取った病院からのお便り

— 鹿児島県鹿屋市県民健康プラザ鹿屋医療センター —

岩手ホスピスの会の皆様へ

このたびはたくさんの心のこもったタオル帽子の贈り物をありがとうございました。まずはスタッフが段ボールを開け、色とりどりの帽子を見て感激！そしてさっそく入院中の患者様へ届けさせていただきました。みなさんほんとうに喜ばれて自然と笑顔になりました。了承を得て撮影させていただいた写真です。作成していただいたお一人お一人にお礼を言いたい気持ちですが、患者様とスタッフの笑顔でお礼にかえさせて下さい。ありがとうございました。

いつも明るい婦人科の患者さん方です。自分からピカチュウの帽子を選ばれて、今も愛用されています。

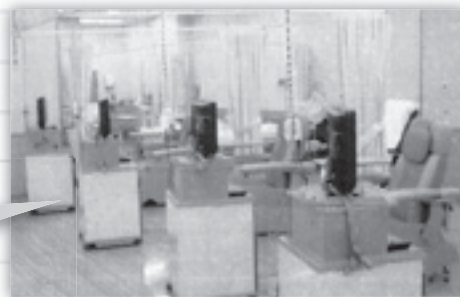


鹿児島県鹿屋市
県民健康プラザ
鹿屋医療センター

内科の入院患者さんとスタッフです。お昼寝中だったのですが、すぐに起きられてとっても喜んでくださいました。



化学療法室に飾らせていただき、欲しい患者様に差し上げています。



平成 22 年に開設しました。当院の外来化学療法室です。だいたい一日 10 名くらいの患者さんが治療にいらつしゃいます。

「岩手ホスピスの会」がん相談ホットライン



開設日	毎月第 2 土曜日 午後 1 時 30 分～4 時 (月により変更あり) 相談無料
場 所	盛岡市若園町総合福祉センター内 タオル帽子倶楽部会場 (月により変更あり)
内 容	電話相談：がん全般についての相談に対応致します。 直接面談：上記会場に来院して頂き対応 ※事前にお電話いただければ、相談内容に合ったスタッフが対応致します。
問合せ	岩手ホスピスの会 090-2604-7918

岩手県がん対策推進協議会参加レポート

第17回岩手県がん対策推進協議会は5月28日盛岡市内で開催され、昨年度のがん対策の取組状況や新年度の取組について関係団体からの報告がありました。新年度のがん対策の取組について、当会を代表して佐々木順子幹事は以下の通り意見を述べました。



岩手県がん対策推進協議会で意見を述べる当会・佐々木順子幹事

①岩手県では緩和ケア病棟がこの10年間でゼロから六ヶ所まで増加し、ホスピス、緩和ケアの理解が広がっており大変喜ばしいこと。未だホスピスのない県北部や沿岸部にもぜひ設置が望まれること

②一人一人がその人の願いに沿った終末期を迎えられるように、患者家族の立場からの終末期の意思表明書の重要性を県民の皆様にご存知いただき、岩手の終末期医療に役立てていただきたいこと。

これに対して同協議会委員が以下の意見を述べました。

「これから高齢者が増えるので全てのところに同じようにホスピスが必要かというところではなくて、ホスピスの代わりになるような受け皿を考えるべきだ。昔と違って施設でも大分看取りをやってくれていますので、そういったところで、ホスピス、緩和ケアの研修も受けて頂いていますので、かなりレベルは上がっています。そういうところをうまく利用してやっていくのが現実的だと思います」（この意見の詳細は岩手県ホームページ、第17回岩手県がん対策推進協議会会議録参照）

http://www.pref.iwate.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/036/487/17th_gan_kaigiroku.pdf

このご意見はこれからのホスピス・緩和ケアを考える当会にとって重要な示唆となると考えられます。このことについて、県ではどの程度把握しているのか医療政策室に問い合わせながら以下の実態を調査したいと考えております。以下に課題を整理しました。

- ①昔と違い施設でも大分看取りをやってくれているということ。どのような施設でどのように看取りが行われているのでしょうか？
- ②県担当課では①の実数についてどの程度把握されているのでしょうか？
- ③施設では緩和ケアの研修も沢山行われ、レベルもかなり上がっているという実状はどうでしょうか？
- ④施設では今後看取りをやってくれるところが増加しても、高齢者ではなくてもがん末期を迎えられる方も少なからずおられますが、このような方々にはどう対処していくのでしょうか？

当会では、岩手県がん対策推進協議会の担当課である医療政策室に、岩手県がん対策推進協議会の専門部会として「緩和ケア部会」を設置して欲しい、と要望したいと考えております。東京都、広島県、奈良県、千葉県など全国各県のがん対策推進協議会の多くに緩和ケア部会が設置され、その県の緩和ケアについて専門的に検討されております。昨年岩手県がん対策推進条例が制定され、条例には緩和ケア推進の文言も盛り込まれており、岩手にも同部会の設置が望まれます。皆様のご賛同をお願い致します。

がん対策基本法改正に向けての要望書

がん対策基本法が成立して来年で 10 年目を迎えます。

厚労省はこの機会にがん対策基本法の改正を検討しています。

6 月 16 日（火）に「国会がん患者と家族の会」主催のヒアリングが、衆議院第 2 議員会館第 2 会議室で開催され、がん患者団体支援機構・副理事長の山本ゆき氏（肩書き：故山本孝史参議院議員夫人）が意見を述べました。

故山本孝史議員は自らががんを患いながら、がん対策基本法の成立に際して多大なご尽力をされた事をご存じの方もおられると思います。

今回、がん患者団体支援機構からもがん対策基本法改正に向けて要望書を提出する事になりました。そこで私たち岩手ホスピスの会からも、要望書に盛り込んでいただこうと要望・意見を同支援機構に送りました。内容は以下の通りです。

同支援機構では、全国の患者会からの様々な意見を汲んだ要望書を提出したいとおっしゃっております。期待したいと思います。（当会はがん患者団体支援機構の会員です）



故・山本孝史議員

がん患者団体支援機構 理事長 浜中和子様

がん患者団体支援機構様から厚生労働省への要望書に、岩手ホスピスの会より以下の通り要望、意見をお送りします。何卒よろしくお願い申し上げます。

2015 年 6 月 22 日

岩手ホスピスの会

① がん対策基本法は経済優先の法律ではなく、患者家族を中心とした人間優先の法律であることを基本理念の冒頭に掲げていただきたいこと。



岩手県がん対策推進協議会

② ①の理念についてはがん対策推進協議会も同様で、各県の協議会にはさらに患者家族関係委員を増やし、各県の担当課は、協議会を専門家集団が意見を述べ合うだけの場とすることなく、患者家族関係委員も気兼ねなく弱者の立場から意見を述べる事が出来るよう配慮していただきたいこと。

③ がん対策推進協議会は年一回ではなく患者関係委員の要請により必要に応じて何度でも開催可能としていただきたいこと。

④ がん対策推進協議会で策定される計画には、その都度必ず一つは患者家族の要望が取り入れられるよう配慮していただきたいこと。

**がん患者
団体支援
機構**

がん患者会間の親睦の支援等の活動を行なう日本の特定非営利活動法人（NPO 法人）。
2005 年（平成 17 年）に開かれた第 1 回がん患者大集会をきっかけとして設立された。
住所：東京都世田谷区中町 2 丁目 21 番 12 号 なかまち NPO センター 311 号室
代表：浜中和子 TEL：03-6411-6471

岩手県内各ホスピス現況（2015年7月現在）

（岩手ホスピスの会調べ 詳細は各病院に直接お問合せ下さい） 12ページにもご案内を掲載

	孝仁病院 緩和ケア病棟	盛岡赤十字病院 緩和ケア病棟	岩手県立磐井病院 緩和ケア病棟	岩手県立中部病院 緩和ケア病棟	美山病院 緩和ケア病棟
住 所	盛岡市中太田泉田 28	盛岡市三本柳 6 地割 1 番地 1	一関市狐禅寺字大平 17 番地	北上市村崎野 17 地割 10 番地	奥州市水沢区羽田町 字水無沢 495-2
電 話	019-656-2888 医療福祉相談室	019-637-3111(代表) 緩和ケア相談室 内線 338 川村・阿部	0191-23-3452	0197-71-1511	0197-24-2141
病 床 数	10 床	22 床（全室個室）	24 床 （個室 20、2 床室 2）	24 床 （個室 18、2 床室 3）	20 床（全室個室）
ベ ッ ド	無料 8 室 有料 2 室	無料 12 室 有料 10 室	無料 17 室 有料 7 室	無料 14 室 有料 10 室	無料 20 室
有 料 室 料 金	1 日 3,150 円	1 日 5,400 円・ 10,800 円	1 日 3,130～ 6,370 円	1 日 3,150～ 12,810 円	無料
看 護 師 数	15 名	18 名	17 名	17 名 + 補助 2 名	17 名 + ケースワーカー 1 名 + 看護補助者 6 名
ホスピス医	臼木豊先生、 米山幸宏先生	旭博史先生、 畠山元先生	平野拓司先生	関根義人先生、星野彰 先生、平賀一陽先生、 佐々木光晴先生	菊池俊弘先生、 及川司先生
看 護 師 長	藤原久美子さん	藤根美知子さん	橋本由美子さん	伊藤ゆかりさん	菅原しく子さん
入 院 審 査 を 受 け る に は	医療福祉相談室にご 相談ください。 月～土曜 8:30～ 17:15（担当 湊）	緩和ケア外来を受診	緩和ケア支援セン ターにお問合せ下さ い。 0191-23-3452	0197-71-1511 （入院相談他） がん相談支援室 相談時間： 平日 9:00～16:00	入院相談（担当：ケー スワーカー）後面談 入院検討会（医師、 薬剤師、栄養士、看護 師、理学療法士で構成）
審 査 日	随時	随時	随時	随時（入院依頼があっ たその日に即日対応）	随時（その後ベッド が空くまで待機）
ホスピス入院 平均待機者人数	院内 7 名 院外 2 名	0	0	3～4 名	0
ホスピス入院 平均待機期間	約 1～2 週間 （時期により変動あり） 重症者優先	外来受診後、 1～7 日程度	1～2 日	待機期間は同院一般 病棟や近隣の病院、 連携のとれている訪 問診療で対応	0
利 用 者 内 訳	盛岡市周辺がほとん ど（8 割以上）	盛岡市周辺の方がほと んど。東京、静岡など からの受け入れもあり	一関市周辺や宮城県 北の方がほとんど	花巻北上周辺の方が 8 割以上。その他は 水沢、盛岡南部等	奥州市周辺の方がほ とんど
緩和ケア外来	診察日： 月～水・金・土 8:30～17:15 木 8:30～12:30 担当医：臼木豊先生・ 米山幸宏先生	診察日： 月・火・水、要予約 担当医：旭博史先生・ 畠山元先生	診察日： 月～金、要予約 担当医： 平野拓司先生	診察日： 月・金の午前、 要予約 担当医： 星野彰先生	診察日： 水 担当医： 菊池俊弘先生
ホスピスボラ ンティアの 人数と活動	登録者 24 名 実働 7～8 名 ホスピスボランティア 募集中 019-656-2888 4 階病棟藤原まで 都合のよい時間でよ いのでぜひ！	病院ボランティア 登録者 17 名。うち 10 名がホスピスで 活動中。 病院ボランティア募 集中	ボランティアコー ディネーター 2 名、 ボランティア 12 名 活動：ティータイム、 季節の行事、がん患 者サロン（こころば）	H23 年 6 月～ボラ ンティア活動開始 40 名登録 定期的に研修を行っ ている	現在登録者 20 名で 活動中。ホスピスボ ランティアを募集中
遺 族 会 の 名 称 と 連 絡 先	ひだまりの会 年 1 回開催 院外の方も参加可能 連絡先：湊、藤原	今年度の設置に向け 準備中	偲ぶ会	偲ぶ会 緩和ケア病棟 (0197-71-1511) 当院緩和ケア病棟で お亡くなりになった 方のご遺族の方のみ これまでに 3 回開催	しちせき 七夕の会 緩和ケア病棟 (0197-24-2141) 当院緩和ケア病棟で お亡くなりになった 方のご遺族の方のみ これまでに 2 回開催
入 院 料			医療保険適応		一般病棟と同じ

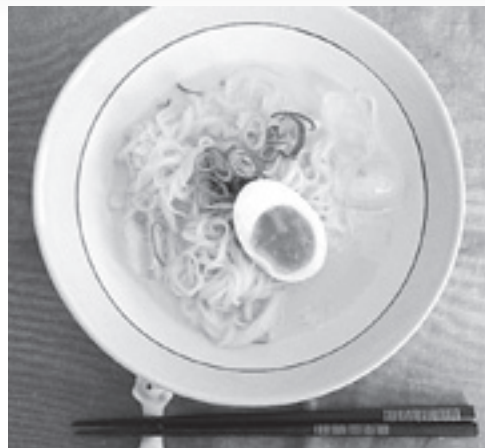
栄養講座レシピ がん患者さんのための栄養講座 パート 20

岩手県立胆沢病院 がん病態栄養専門管理栄養士 蛇口 真理子

そろそろ本格的な夏に突入しますね。

体調が優れないときに暑いと、食欲がなくなりがちになります。「つつい昼食はさっぱりしたそうめん」という方もいませんか？

食べる量が減ってくると栄養状態も低下します。少量で炭水化物も蛋白質も一緒に摂れるおすすめの一品を紹介します。



豆乳そうめん

1人前エネルギー 約 305 kcal

材料 (1人分)	分量
そうめん (乾)	50g
ゆで卵	1/2 個
ねぎ	適量
豆乳	150cc
味噌	小さじ 1
麵つゆ	A 小さじ 1
砂糖	小さじ 1/3
酢	小さじ 1

作り方

- ① A の材料でたれを作る。味噌、麵つゆ、砂糖を混ぜ、豆乳で伸ばし、酢を入れる。冷蔵庫で冷やす
- ② ゆで卵を作る。1/2 に切る。お好みで半熟でも可。
- ③ ねぎを小口切りにする。
- ④ そうめンを茹で、水でもみ洗いし、水気を切る。
- ⑤ そうめンを器に盛り、①のたれをかけ、ゆで卵、ねぎを添え出来上がり。

※体調に応じて、たれは冷やさず常温、また、そうめんを柔らかくゆでてもおいしく食べられます。

●●● 食べる量が減ってきたときの対応 ●●●

食道がん、口腔がんなどでは嚥下に影響を与え、嚥む・飲み込むことが困難になることがあります。食事が減少すると体重減少や低栄養状態につながるため食べやすく工夫して、栄養を摂りやすくしましょう。

● 噛みにくい場合⇒噛みやすくする調理の工夫

- ① やわらかい食品を選ぶ。食べやすい大きさに切る。
- ② はんぺん、肉団子、冷奴、卵豆腐など口の中でばらつくものは「たれ」「あん」「和え衣」を利用する。
シチュー、カレー、あんかけ料理、マヨネーズ和え、白和えなど

● 飲み込みにくい場合⇒飲み込みやすい工夫

- ① すべりの良い食べ物を利用。
とろろ芋かけごはん、ゼリー寄せ、ワンタンスープやかき玉汁など
- ② 水分がむせる場合はとろみをつける。
市販のとろみ剤（介護用品コーナーにあります）、片栗粉でとろみをつける、ゼリーの利用

※体重減少などあり、心配な時はかかりつけの病院の医師、栄養士に相談してみるのもよいでしょう。

参考文献「がん治療前の食事のヒント」 公益財団法人 がん研究振興財団

タオル帽子を作りたい方へ

※タオル帽子を作りたい方へ型紙をお譲りしています。

※申し込み方法：はがきかメールでお願いします。メールアドレス：hospice@eins.rnac.ne.jp

はがき：031-0823 青森県八戸市湊高台 6-4-22 吉島方「岩手ホスピスの会」



これからのタオル帽子講習会・日程

9 月 12 日：タオル帽子講習会・サロン

10 月 10 日：タオル帽子講習会・サロン

11 月 14 日：タオル帽子講習会・サロン

場所：盛岡市総合福祉センター 開催時間：午後 1 時 30 分から 問い合わせ先：080-1658-1762

※型紙のコピーはご遠慮願います。型紙の必要な方は当会へお問い合わせください。

***** 岩手ホスピスの会活動日誌 *****

2015 年 6 月～7 月

6 月 13 日 第 6 回役員会～タオル帽子サロン・講習会
……………(盛岡市総合福祉センター、21 名)

6 月 20 日 盛岡友愛病院緩和ケア病棟見学会
……………(同院、8 名)

全国のがん診療連携拠点病院へタオル帽子
発送作業…(盛岡市タオル帽子倉庫、10 名)

6 月 21 日 全国のがん診療連携拠点病院へタオル帽子
発送作業…(盛岡市タオル帽子倉庫、3 名)

6 月 22 日 来年度がん対策基本法改正に伴う当会から
の意見書をがん患者団体支援機構に提出 ……………(盛岡市、1 名)

6 月 27 日 ホスピスセミナー……………(盛岡市総合福祉センター、30 名)

7 月 4 日 東日本大震災被災地支援草刈りボランティア……………(陸前高田市上壺仮設住宅、4 名)

7 月 11 日 第 7 回役員会～タオル帽子サロン・講習会 ……………(盛岡市総合福祉センター、20 名)

7 月 17 日 NTT 東日本関東病院化学療法センター訪問……………(東京都・同院、1 名)

7 月 28 日 来年度がん対策基本法改正に伴う当会からの意見書を
NPO 法人がん対策サミットに提出 ……………(盛岡市、1 名)



6 月 27 日 ホスピスセミナー

被災地支援活動

7 月 4 日東日本大震災被災地支援活動として、陸前高田市竹駒町・上壺仮設住宅において当会より 4 名参加して、仮設住宅周辺に生い茂った雑草の草刈りボランティアを行いました。住宅の方から大変助かったとお礼の言葉を頂きました。

本当にささやかな取り組みですが、これからも僅かでもお役に立てるよう取り組んで行きたいと思います。



仮設住宅周辺の草刈りを行いました。

がん患者さんのための公開栄養講座 ～がん治療中のお食事について～

日 時：9月5日（土） 13時30分～15時
場 所：盛岡市総合福祉センター（若園町2-2）
講 師：胆沢病院栄養士 蛇口 真理子さん
（がん病態栄養専門管理栄養士）

参 加 費：無料

お問合せ：090-2604-7918（川守田）

参加費：無料

化学療法中の副作用に合わせた食事や緩和ケアの方に喜ばれる食事について、がんの専門の栄養士がお話します。

相談コーナーもあるのでお気軽にいらしてください。



盛岡友愛病院ホスピス（緩和ケア病棟）見学

6月20日に岩手県盛岡市・盛岡友愛病院ホスピス（緩和ケア病棟）の見学会を行いました。当日は佐々木信子看護部長と高橋美穂子緩和ケア病棟師長、畠山弥生緩和ケア認定看護師が迎えて下さいました。

開設して間もない中、何名かの患者さんがテラス等にいらっしゃるのを目にしながら、病棟内を案内していただきました。このホスピス開設には同院の理事長さんがお母様を看取った経験が反映されているとお聞きし、人の思いがこもったホスピスであることを知りました。できたら当会でもこのホスピスのために何かお手伝いがしたく、院内での定期的なタオル帽子作り講習会の開催や今後設置が検討されている院内患者サロンでの当会のタオル帽子活動を提案させていただきました。一人でも多くの患者さんが笑顔になることを願って活動できれば幸いです。



看護部長さん、師長さん、認定看護師さんと記念写真

新年度会費の納入をお願いいたします。

岩手ホスピスの会は皆さんの会費により運営されております。2015年度会費（2015年1月～2015年12月分）を郵便局にて、振込用紙に住所、氏名を明記の上振込をお願いいたします。

なお、行き違いですすでにお支払いいただいております折は、なにとぞご容赦ください。また、ご住所の変更があった方はお手数ですがご連絡をお願いします。

会費：1,000円（複数口可） 郵便振替：02250-1-60580 岩手ホスピスの会

2015年（平成27年）3月10日（火曜日）

二戸地域のカシオペア地域医療福祉連携研究会（中田勇司代表世話人）は、胃ろうや人工栄養の導入など終末期医療に関する希望を記す事前指示書「HOTARU（ほたる）」を作成した。本人の考えが分からず、周囲が延命医療の是非を判断できないケースがあるため、元気なうちに家族で「最期の時」を話し合っ

てもらうことが狙い。同会は12日の公開講座で内容を紹介する。

「最期の時」 家族と備え

HOTARUは8ページ、A5判の冊子。▽現在の自身の状況▽各延命処置の導入▽病気の告知▽痛みの緩和医療▽記載内容の公表範囲▽の5項目について本人の希望を記すことができる。

同会は2010年、介護と医療の連携や他職種との交流を目的に発足し、勉強会を重ねてきた。13年には地域版人工栄養ガイドラインを作成。HOTARUの作成では、本人と家

二戸地域の医療福祉研究会

終末期の指示書作成

族の心を乱さないよう、表現を工夫するなど、1年以上議論を重ねてきた。県保健福祉部にすると、地域の関係者が連携して作成した事前指示書は県内初という。メンバーの高橋清典立二戸病院副院長は「本人の意思が分からないうちに延命医療をやる問題も増えてくる。」

中田代表世話人は「この年から高齢者が増え、延命医療の選択に関わる問題も増えてくる。」



カシオペア地域医療福祉連携研究会が作成した事前指示書「HOTARU」

地域として理解を深めていきたい」と呼び掛ける。

岩手県内ホスピス状況（2015年7月現在）

盛岡友愛病院緩和ケア病棟

住所／岩手県盛岡市永井 12-10

電話／019-638-2222

病床数／18床

ベッド／個室 10床のうち9床が有料 4床室無料

有料室料金／1日5,400円

看護師数／11名＋補助3名

ホスピス医／藤井祐次先生

看護師長／高橋美穂子さん

入院審査を受けるには／医療相談室まで。TEL：019-638-2222（代表）

月～金曜：9：00～17：00 土曜：9：00～12：30

審査日／週2回を予定

ホスピス入院平均待機者数／開設したばかりなのでデータなし

ホスピス入院平均待機期間／開設したばかりなのでデータなし

利用者内訳／開設したばかりなのでデータなし

緩和ケア外来／開設未定

ホスピスボランティアの人数と活動／稼働検討中

遺族会の名称と連絡先／設置未定

入院料／各種医療保険適用、医療費の他に食事代別途徴収

岩手日報掲載

（事前指示書「HOTARU」についての更に詳しい紹介は1ページ「ホスピスセミナー開催」参照）